



秋剣連

発行
秋田県剣道連盟
 〒010-0914
 秋田市保戸野千代田町 14-12
 SAKAEビル 2F-B
 TEL 018-883-0680
 FAX 018-883-0663
 E-mail a-kendo@abellia.ocn.ne.jp
 http://www18ocn.ne.jp/~axtkendo/



**第1回秋田県幼・小低学年
個人剣道錬成大会
開催される。**

剣道人口の減少及び少子化対策の一環として現在、県内で行われていない幼年（未就学児童）及び小学校低学年（4年生以下）の個人錬成を行うことにより幼年少年剣道の底辺拡大とレベルの向上を図ると共に、正しい剣道の普及と、将来にわたり剣道に親しむ心身を育成する趣旨のもと、秋田県剣道道場連盟主催で平成24年1月22日（日）に秋田県立武道館にて開催。



◎1年生の部

- 優勝 東海林健太 (勝平)
- 準優勝 小野 太心 (東昇剣)
- 3位 高島 慶太 (雄信館) ・ 三浦 育馬 (雄信館)
- 敢闘賞 加賀谷雅恭 (港剣志館) ・ 渡部ひかり (天王館)
- 田口 龍也 (角間川) ・ 佐藤 悠月 (雄信館)

2年・3年・4年の
 入賞者写真・氏名は
 4頁に掲載しています。

◎幼年の部

- 優勝 本間 廉基 (奥檜館)
- 準優勝 田中 夢 (奥檜館)
- 3位 鎌田 誠也 (神武館)
- 敢闘賞 猿田 桂 (養心館五城目) ・ 鶴田 琳果 (雄信館)
- 諸井福次郎 (雄信館)

新八段誕生

十一月の東京審査会で合格率〇・八%の難関を見事突破し、合格された本県現役7人目の後藤先生よりご寄稿いただきました。



教士八段
後藤 俊明

このたびの昇段にあたり、多くの方からお祝いのご言葉をいただき有難く存じます。また、秋田県剣道連盟からも記念品を頂戴し、紙面をお借りしお礼を申し上げます。

八段審査挑戦7回目。私の場合、1年に1度、秋だけの受審でしたので7年の歳月を要しました。今回とこれまでと何が違うのか。昨夏から、自分の時間が増えたことは事実ですが、部活動をしていると合格できないのかという、そう言う問題ではなく、自分の取り組み方、そして心のあり方なのだと思います。

この紙面に書くまでもなく当たり前のことですが、基本練習と教えに従うことの大切さを再認識させられました。基本練習の一本一本を正確におこなうこと。そして先生方から教えていただいたことの意味を考え、自分の技になるまでくり返し稽古すること、それまで迷っていたこと

が一つ一つ消えていきました。思えば幼少の頃から同じことをずっと続けてきたのだと思います。

ほとんど遊びのようだった小学校時代。自分たちで練習メニューを考えてやっていた中学校時代。そして、伊藤碩士先生の教えに必死についていった高校時代。同じことのくり返しの中で、自分がどう変わっていかかそれぞれの中で、ターニングポイントだったと思います。

今回の昇段審査では、「攻め負けず」「打ち急がず」「我慢する」ことがある程度実践できたのではないかと思います。今後は、自分自身の稽古に励むことはもちろんですが、これまで多くの先生方に教えていただいたことを、次の世代に伝えていく責任があることを痛感しています。

教育学部に進み教員をめざしたのは、部活動指導に携わりたいと考えたからです。昨春までの教員生活約30年の間に、講師時代の秋田南高校も含め5校で剣道部の指導をし、多くの生徒とかかわってきました。高校卒業後も何らかの形で剣道を続けている人たちが、どの学校の卒業生にも少なからずいることは、私にとって大変うれしいことですし、使命を少しは果たせたかなと安堵感もあります。このたびの祝賀会にも5校すべての剣道部員のうち何人もが顔を見せてくれ、教師冥利に尽きるところです。

毎週火曜日に県立武道館でおこなわれている県剣道連盟主催の稽古会が大変役立ちました、秋田県内だけでなく、遠く山形県からも参加者があるこの会で、多くの先生方が基に

立ち、かかる稽古をおこなうことができました。特に、目黒大作範士と小松誠教士には数多くかかることができ、適切なアドバイスいただき感謝申し上げます。いろいろな意味で充電期間だったこの一年にためたエネルギーを今春からいかに使うべきか。残る教員生活の中でこれまでの恩返しができるよう、心を新たに剣道に励みたいと考えています。

シリーズ道場紹介 第四回

石沢スポーツ少年団剣道部



●本道場の歴史

戦後まもなく故井島仁三郎先生始め地域の方々のご尽力で、石沢小学校剣道部が発足。平成二年石沢スポーツ少年団剣道部（複合スポ少）として現在に至る。少子化により、中学校剣道部の廃部で、続ける団員が居なくなつた時期もありましたが、本荘東中学校ができ、中学・高校・大学・社会人に至るまで、活躍している。

●稽古日と時間

火・木・土曜日

午後六時～七時三〇分

於・石沢小学校体育館

●稽古内容・指導要点

部旗の剣以磨心（井島仁三郎先生の造語）を始めとして、元気でやる気を持ち、健康に育つ事を第一に、基本を中心に指導している。

●本道場の特徴

地区公民館主催の武道大会は四十二回を数え、御盆前後の稽古会では、OBである国際武道大学の井島章先生始め、部員・OB・OG等で盛会に行われる。又、十二月に竹刀納めでは、親子剣道も行われる。小さな学区（児童数七十八名）ではあるが、地域と共に歩んでいければと願っている。

●指導者数

三名（スポーツ少年団登録指導者）

●門弟数

十一名

●会費

一万五千元（年会費）

●スポ少代表指導者

●所在地

由利本荘市館字六角一六八番地
（石沢小学校内）

地区剣連主催・共催 剣道大会

郡・市剣連の主催・共催の大会として、その地域・地区に於いて永い歴史を持ち、数多くの少年剣士を育ててきた剣道大会を紹介するコーナーです。



第51回鳥海弘毅顕彰剣道大会開会式

第五十一回鳥海弘毅顕彰剣道大会

一、大会の目的・歴史

●目的

旧岩城町出身で戦前の財団法人大日本武徳会創立功労者である鳥海弘毅先生の業績をたたえ、秋田市、由利本荘市、にかほ市児童生徒の心身の錬成と剣道技術の向上及び友好を深めることを目的とする。

●歴史

昭和三十六年、秋田市・本荘市・岩城町を参加対象とし、「三地区対抗少年剣道大会」が開催される。その後、大会名を「鳥海弘毅顕彰

剣道大会」と改め、参加対象地域を拡大しながら、現在に至る。

二、開催期日・会場・主催

○平成二十三年十一月十九日(土)

○由利本荘市岩城総合体育館

○由利本荘市教育委員会・岩城剣友会

三、参加対象、今大会参加チーム数

●参加対象

秋田市、由利本荘市、にかほ市の小中学生団体及び前回大会招待団体

●参加チーム数

小学生の部：四十一チーム

中学生男子の部：二十四チーム

中学生女子の部：二十二チーム

四、大会記録

●小学生の部

優勝：修武館A

準優勝：港剣志館A

第3位：雄信館内山道場A

第3位：鶴舞剣道スポーツ少年団A

●中学生男子の部

優勝：秋田大学教育文化学部 附属中学校A

準優勝：勝平中学校

第3位：本荘東中学校A

第3位：本荘北中学校A

●中学生女子の部

優勝：秋田大学教育文化学部 附属中学校A

準優勝：北剛剣道クラブ

第3位：城南中学校A

第3位：矢島中学校A

五、今大会の内容

創設から半世紀を超え、第五十一回を迎えた今大会には、秋田市、男鹿市、にかほ市、由利本荘市の四地域から総勢四百名を超える剣士が参加した。

開会式では、全日本剣道連盟理事の範士八段加藤浩二先生よりご挨拶をいただき、諸先生の見守る

中、試合が開始された。試合では、実力が拮抗し、代表戦で二回延長戦が行われるなど、激しい熱戦が繰り広げられた。また、試合の合間には、剣士同士の交流や先生による厳しい指導も見られた。

年末の大会ということで、各剣士がそれぞれの錬成の成果、課題を確認できた大会になったと思う。

第二十八回石川伝吉旗争奪 湯沢市雄勝郡小学校剣道錬成大会

一、大会の趣旨

湯沢雄勝地域の少年剣士たちの日頃の練習の成果を発揮する大会として開催すると共に、剣道を通して、少年健全育成をはかる事を趣旨としている。

二、主催・後援

●主催 湯沢市雄勝郡剣道連盟

●後援 湯沢雄勝小学校スポーツ交流実行委員会

三、会場・開催日

●会場 湯沢市立湯沢東小学校体育館

●開催日 十一月十九日(土)

四、大会の歴史

昭和四十七年、湯沢雄勝学校体育連盟の主催で郡市小学校親善剣道大会として開催されましたが、昭和五十九年より湯沢市雄勝郡主催で本大会を引き継ぎ第一回大会を開催しました。

昭和五十二年より岩崎剣道少年会を結成され、同会の師範をされ少年剣士の育成に深い愛情と情熱を傾けられた石川伝吉先生が当連盟副会長として在任されていた昭和五十九年に秋田県剣道連盟「功労賞」を受賞され、記念に、本大

会へ優勝旗をご寄贈下さいましたので、昭和六十年の第二回大会より、以後石川伝吉旗争奪郡市小学校剣道錬成大会という名称で今回まで継続して開催しています。

五、参加対象

今大会の区分別参加者数

○個人戦

四年生男子の部 十五名 四年生女子の部 五名

五年生男子の部 十七名 五年生女子の部 四名

六年生男子の部 十六名 六年生女子の部 十名

六、大会の内容

個人戦は、各学年別、男女別で行い、団体戦は学年別、男女別を問わず一チーム五人制でトーナメント方式で行いました。石川伝吉旗争奪大会という事を大切に、これまで岩崎小学校体育館で開催し、岩崎剣道少年会の父母の皆さんに昼食やお茶の用意、会場への誘導等ご協力いただいていた大会でしたが、少子化に伴い、岩崎小が湯沢東小、湯沢北小と統合になり、岩崎小学校で開催できなくなったことから、新設湯沢東小学校を会場に開催しました。



第28回石川伝吉旗争奪
湯沢市雄勝郡小学校剣道錬成大会開会式

第16回秋田県中学生・高校生
学年別剣道大会(中学校の部)

平成24年2月4日(土)
県立武道館に於いて開催。

●個人エントリー数

- 1年女子 83名
- 2年女子 113名
- 1年男子 156名
- 2年男子 179名

【学校対抗】

●中学校1年男子

- 優勝 秋田北中学校
- 準優勝 山王中学校
- 3位 秋田南中学校

●中学校1年女子

- 優勝 湯沢北中学校
- 準優勝 勝平中学校
- 3位 城南中学校

●中学校2年男子

- 優勝 大曲南中学校
- 準優勝 秋大附中学校
- 3位 城南中学校
- 3位 泉中学校
- 3位 本荘北中学校

●中学校2年女子

- 優勝 山王中学校
- 準優勝 羽後中学校
- 3位 天王中学校

個人ベスト8以上の入賞者は下の
とおり。



●中学1年女子(個人)

- 優勝 前田 舞 (勝平中)
- 準優勝 佐藤 璃美 (秋田北中)
- 3位 佐藤 寧々 (城東中)・荒井 雅世 (湯沢北中)
- 敢闘賞 福嶋 百花 (湯沢北中)・湯澤 弥来 (城南中)
- 岩井 万那 (城南中)・山本 麻生 (土崎中)



●中学1年男子(個人)

- 優勝 鈴木 祐輝 (秋田北中)
- 準優勝 齊藤 徳 (秋田北中)
- 3位 工藤 脩平 (秋田南中)・茂木 敬哉 (仙北中)
- 敢闘賞 小林 昂嗣 (山王中)・森 颯大 (土崎中)
- 赤間 尊歩 (秋田北中)・鈴木 希望 (大潟中)



●中学2年女子(個人)

- 優勝 尾形友美佳 (山王中)
- 準優勝 伊藤 里奈 (天王中)
- 3位 阿部 弘奈 (羽後中)・浅野 李湖 (秋田東中)
- 敢闘賞 中村 晴香 (本荘北中)・菅原 福子 (大曲南中)
- 山村 梨乃 (土崎中)・那須川亜美 (羽後中)



●中学2年男子(個人)

- 優勝 南浦 章伸 (秋大附中)
- 準優勝 寺田 宋 (大曲南中)
- 3位 佐々木克樹 (大曲南中)・田越 滉平 (大曲南中)
- 敢闘賞 高橋 寛生 (城南中)・斎藤 泰知 (泉中)
- 小野 敬介 (本荘北中)・佐藤 大器 (秋大附中)

第16回秋田県中学生・高校生
学年別剣道大会(高校の部)

平成24年2月4日(土)
県立武道館に於いて開催。

●個人エントリー数

- 1年女子 45名
- 2年女子 43名
- 1年男子 92名
- 2年男子 84名

【学校対抗】

●高校1年男子

- 優勝 秋田南高校
- 準優勝 秋田高校
- 3位 能代高校

●高校1年女子

- 優勝 秋田南高校
- 準優勝 大曲高校
- 3位 秋田北高校

●高校2年男子

- 優勝 秋田南高校
- 準優勝 秋田商業高校
- 3位 明桜高校

●高校2年女子

- 優勝 秋田北高校
- 準優勝 由利高校
- 3位 能代北高校
- 3位 明桜高校

個人ベスト8以上の入賞者は次
ページに掲載。



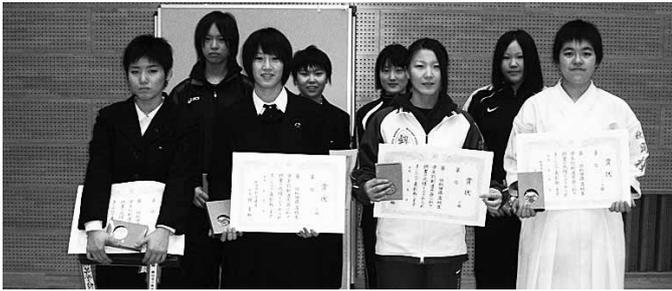
●高校1年女子(個人)

優勝 木村 早希 (秋田南)
 準優勝 佐々木 颯子 (秋田南)
 3位 佐藤 ひかる (秋田中央) ・ 柴田 知里 (秋田南)
 敢闘賞 太田 友紀 (大曲) ・ 前田 真咲 (明德館)
 小野 愛理 (大曲) ・ 荒澤 ひろな (秋田北)



●高校1年男子(個人)

優勝 桒山 大晟 (秋田南)
 準優勝 鈴木 優平 (秋田)
 3位 山田 丈雄 (能代) ・ 須藤 佑太 (秋田)
 敢闘賞 筒井 雄大 (秋田南) ・ 池内 政貴 (能代)
 青野 光佑 (秋田中央) ・ 高田 紗良 (秋田中央)



●高校2年女子(個人)

優勝 松下 美貴 (秋田北)
 準優勝 打矢 紗英子 (由利)
 3位 大塚 千穂 (能代北) ・ 宇佐美 早穂 (明桜)
 敢闘賞 田中 希 (秋田中央) ・ 高橋 良佳 (秋田南)
 保坂 里沙 (秋田北) ・ 佐藤 紫誉子 (秋田北鷹)



●高校2年男子(個人)

優勝 藤田 裕太郎 (秋田南)
 準優勝 古井 岳盛 (秋田南)
 3位 澁谷 樹 (秋田南) ・ 加藤 旦陽 (秋田南)
 敢闘賞 小助川 洋道 (秋田商業) ・ 新沢 輔汰朗 (大館)
 齊藤 凌馬 (明桜) ・ 佐々木 信彰 (大館鳳鳴)

○第41回魁星旗争奪
 全国高校勝抜剣道大会
 ○第28回魁星旗争奪
 全国高校女子剣道大会
 錬成会 3月26日(月) ~ 28日(水)
 男子 県立武道館
 女子 県立体育館
 開会式・試合・表彰閉会式
 3月29日(木) ~ 31日(土)

全剣連より「加藤浩二」先生を講師としてお迎えし、66名の参加のもと平成23年11月20日(日)県立武道館に於いて開催。



全日本剣道連盟後援
 秋田県剣道講習会
 (日本剣道形)

平成23年度末(3月)・平成24年度当初(4月) 秋剣連行事

○東日本中央講習会伝達秋田県講習会
 4月7日(土)・県立武道館
 ○秋田県剣道連盟役員会(総会)
 4月21日(土)・パークホテル
 ○秋田県剣道段別選手権大会
 4月28日(水)・県立武道館

第60回全日本都道府県対抗剣道優勝大会(秋田県予選会優勝者) 平成24年2月19日(日) 県立武道館

○先鋒の部(高校生) 藤田裕太郎(秋田南)
 ○次鋒の部(大学生) 齋藤 将吾(中央大)
 ○五将の部(18歳以上35歳未満・警察職員・教職員・大学生・高校生を除く) 鈴木 滋(刑務官)
 ○中堅の部(教職員・年齢制限なし) 鷲谷 和(聾学校教)
 ○三将の部(警察職員・年齢制限なし) 土田 圭助(機動隊)
 ○副将の部(35歳以上・警察職員・教職員を除く) 鈴木 一彦(刑務官)
 ○大将の部(50歳以上・剣道教士七段以上) 高橋 亮(御野場中教)

第60回全国大会は、平成24年4月29日(祝)、大阪市中央体育館で開催されます。

東成瀬中学校で開催した剣道達人教室

剣道少子化対策委員会委員 岸野直彦



湯澤寛・森内厚志両先生の模範試合

瀬村教育長と高橋良二校長から、秋剣連に講座開催の依頼があり、実現の運びとなったものです。

○剣道達人教室の内容

最初に範士八段目黒大先生から講話が行われました。目黒先生からは、「武道の精神の中核は、日本文化の底流にある思いやりの心であり、相手に対する気づかいや尊敬の念が大切です。剣道の試合は、ただ勝てば良いのではなく、敗者に対する思いやりの気持ちが大切で、極端な勝利の誇示や相手に礼を欠く行為などに対しては、勝利が取り消される場合もある競技です。」「日本の伝統文化としての剣道を通じて、日本人としての自覚を深め、グローバル化する国際社会の中で活躍できる立派な人間に育って欲しい。」など、剣道の持つすぐれた文化的特性について講話が行われました。また、武術から現代剣道に発展してきた歴史的経過についても説明がなされました。

次の実技・実演では、湯澤寛教士八段と森内厚志教士七段による、「日本剣道形」と「木刀による剣道基本技稽古法」が披露されました。続いて基本技、連続技、切り返し、打ち込み、模範試合が行われ、達人の「気迫あふれる技」に見学している生徒達からは感嘆の声が上がりました。

次の体験コーナーでは、生徒達が実際に木刀の持ち方や振り方を指導してもらった後、新聞切りやバスケットボール打ちに挑戦して、剣道の楽しさを体験しました。最後に、防具を着けた先生方に向かっての小手や面の基本打ちを行い、実際に打った感触を楽しむことができました。今回の貴重な体験について、「初めて、間近で達人の先生方の剣道を見てとても感動しました。」「これまで、剣道を体験する機会はありませんでしたが、いつかは自分も剣道をやってみたい。」という感想などが述べられました。

○終わりに

中学校における「武道必修化」について、剣道を実施する学校が全国的に少ないことや、少子化社会が進む中で剣道人口が減少し、学校の部活動や地域の道場、剣道スポーツ少年団等の活動にも深刻な影響が出てきています。このような状況の中で、各地域の剣道関係者や学校がお互いに連携や工夫を図りながら、日本の伝統文化としての剣道のすばらしさについて見聞を広める機会を積極的につくり、普及を図っていくことが大切であることを実感し、講座を終了することができました。

剣道体験教室

(剣道やろうよ!) の実施
集まれ少年剣士!

平成24年1月21日(土)、「第7回 潟上カップ剣道大会」開催日の午前中に、秋剣連と男鹿市・潟上市・南秋田郡剣道連盟の共催で、剣道体験教室(剣道やろうよ! 集まれ少年剣士!)が親子80名を超える参加者を得て、天王総合体育館で開催されました。この企画は、剣道少子化対策事業の一環として、広く地域の幼児や小学生とその保護者を対象にチラシ(約800部)を配布して呼びかけたもので、風船割りや新聞切り、基本打ち体験を通して、剣道に対する興味・関心を持ってもらうことを狙いとして実施したものです。

一人でも多くの子ども達が剣道に興味・関心を持ち、剣道を始める機会となるよう、今後も地域や団体の要請に応じて実施していきたいと考えています。

新聞切り



風船割り



恩師の思い出



大曲・仙北剣道連盟会長
秋田県剣道連盟副会長

佐々木 茂

「学校剣道」に名称が統一され、撓
競技から剣道へ正式移行された昭和
三十五年の秋、運動経験のない中学二
年生が剣道と出会ったのが始まりです。
学校は現在と同じ場所にあり、校名
も同じ横手市立鳳中学校ですが名目
統合の第一期卒業生になります。校舎
と野球場もとれないグラウンド一面だ
けの狭い土地にあり体育館はなし、二
つの運動部、バスケットボール・バ
レーボール部は外での活動でした。
剣道部監督の加藤春作先生はバス
ケット部と掛け持ちでしたから、勿論
剣道部も屋外での活動です。それでも
練習時間確保のため、小学校の体育館
を借用して早朝練習をしていただけ
でした。帰宅後、朝食をとって登校し
放課後も練習したこと、天候が不安定
なとき、雨の日、学校の事情等で練習
ができない日は、剣道具を担いで横手
高校まで往復40分ほど歩いて練習に
いきました。翌日の授業は「昨日は何
本やった」から始まるのが常でした。
一日二回の練習の時間が随分とあつ
たような気がします。そこで指導をい
ただいたのが高校時代の恩師になる
古川汎仁先生、戸澤広海先生でした。

古川先生は戸澤・加藤両先生の恩師
で、戸澤先生は加藤先生の先輩でした
ので安心して高校の練習に参加させ
たことが後日わかりました。

剣道開始一年の私には高校生と一
緒の練習は辛い面も多くありました
が、両先生にはいつも「いいぞ」、「が
んばった」、「がんばれ」と励ましの
言葉をかけていただいたことが印象
として残っています。高校の夏合宿で
は弁当持参で一日中部員と一緒に活
動させてもらいました。また、高校入
学後に剣道部入部が確実と思われる
受験者は、合格発表前の春の合宿に参
加した記憶があります。考えると教頭
職にあつた先生の影響が相当強く働
いたものだっただろうと改めて思い
出します。

五年間にわたり指導を受けた古川
先生は、山形県鶴岡市出身、鶴岡中学
校卒業後武道専門学校に入学、陸軍入
隊のため休学、復学して武専卒業、三
重県師範学校教諭を経て昭和五年か
ら昭和三十五年まで横手中学校・横手
高校に勤務され、昭和三十七年に故郷
鶴岡に転居されました。

「面キチ」という言葉をききました。
これは、面をかぶると「キチガイ」の
ように稽古の鬼と化す先生につけら
れたものだそうです。石坂洋次郎の
「何処へ」の金助を松の木へ追い上げ
た野口先生のモデルでもあります。私
が出会い指導を受けた五年間は監督
を教え子の戸澤先生に譲られたせい
でしょうか、「面キチ」とは違う雰囲気
での切り返し、掛かり稽古中心の基
本を徹底したものに変わっておりま

した。機嫌のよいときは「二本勝負」
と声をかけていただきましたが、最後
はいつも馬乗りになられ、胴で喉くび
を押され、袴の横から手を入れられ降
参させられたものです。

剣道場での礼法、神前での礼の仕
方、手拭いのかむり方、面のつけかた、
稽古着の後ろ襟について等々多くの
ことを教えていただいた。そして怪我
で休んだ際はわざわざ自宅まで様子
をみにきていただいたりもした。「天
網恢々疎にして漏らさず」とよく口に
されて生活全般にわたり教えをいた
だいた人生の師でもあります。

先生を慕う剣道部員が昭和四十五
年から、お亡くなりになった後の平成
三年の七回忌まで、先生を囲む「古川
会」を続けられたのも人徳のなせると
ころでしょう。

大勢の先生たち、先輩の皆様からお
世話になって年齢を重ねてきました。
大学の恩師も武専出身の本田重遠先
生でしたし、大曲仙北の連盟で指導
いただいた元秋剣連副会長の進藤秀
夫先生も武専です。私の周りは武
専と関わりのある方や縁のある方が
多くおられました。

「懺くさき 面籠手つけて

剣に生く」梵寺

(梵寺は古川先生の俳号です)

諸先生・諸先輩の教えを大事にしな
がら、多くの方々から教え・助言を糧に、
右の句の心境に近づけたらと考えて
います。

秋田県剣道連盟ホームページ

URLは
<http://www18.ocn.ne.jp/~axkendof/>

ホームページ内では、年間
の行事や試合結果を随時更新
しています。

剣道・居合道・杖道関連の
情報や試合結果を取得する際
にご活用ください。その他に、
各郡市ごとの道場案内・月別
行事予定表・九郡市連盟事務
局一覽・県剣道連盟運営組織
図や、日本剣道形・木刀による
基本稽古法の動画、各種講習
会の記録、秋田県剣道の先覚
者などの記事も掲載されてお
ります。

編集後記

今年度の広報発行を前期(十一月)、
後期(三月)の二回にしたことで
「タイムリーな内容」
「ローカル大会記事の掲載」
「シリーズ記事の継続」
という三つの編集目標をどうにかク
リアすることができました。
ご多忙にもかかわらず、ご寄稿くだ
さいました皆様にご心から感謝申し上
げます。

編集

秋田県剣道連盟広報委員会
吉田 雅宏、大森 宣昌、伊藤 隆
芳谷 正人、保坂 徹、辻 文彦
鹿子沢 浩美